

## I. 一般目標 (General Instructional Objective)

臨床診断に深く関わる臨床検査(検体検査、生理機能検査)について、その基本的な考え方、知識、技術を習得し、臨床検査による診断能力を向上させる。

## II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

### 1. 臨床検査医学総論(医療倫理、医療安全も含む):

- ①検査計画法と検査結果の判定: 感度、特異度、予測値、カットオフ値、ROC曲線、パニック値など
- ②正常値あるいは基準範囲
- ③測定値の技術的変動

### 2. 一般臨床検査学:

一般検査を用いた検査診断学的アプローチを理解する。

- ①尿検査 ②糞便検査 ③髄液検査

### 3. 臨床血液学:

血液・造血器系疾患診断法を理解する。

- ①検体の取扱い: 採血行為、抗凝固剤
- ②血液一般検査の解釈
- ③血液形態検査: 末梢血液像、骨髄像、網赤血球、特殊染色など
- ④止血、血栓に関する検査の解釈
- ⑤染色体検査の解釈(代表的な染色体異常)

### 4. 臨床化学:

- ①臨床化学に必要な基本的・簡単な統計検査
- ②酵素活性測定法の概略
- ③日常診療における基本的検査としての化学検査の臨床的意義について理解する。

### 5. 臨床微生物学:

- ①感染症の種類と変貌の概略の理解: 市中感染と院内感染、日和見感染について
- ②感染症診断法の概略: 塗抹検鏡、培養・同定検査、核酸検査
- ③検体検査法と臨床的意義: 検体の採取法・輸送・保管の注意点、各種染色・鏡検法など
- ④臨床細菌学で重要な微生物の学名と臨床的意義
- ⑤薬剤感受性検査法と化学療法について理解する。
- ⑥病院感染症防止のための微生物検査について理解する。

### 6. 臨床免疫学:

- ①免疫系の構成と機能の概略を理解する。
- ②免疫機構の異常に伴う病態と疾患の概略を理解する。
- ③免疫血清学的診断法の原理・概要を理解する。

### 7. 輸血学:

- ①血液型検査の概略: ABO式血液型、Rh式血液型
- ②交差適合試験: 主試験と副試験、交差適合試験の方法と選択、不規則抗体スクリーニング、各種血液製剤の適応について理解する。
- ③その他: 血液保存法、Type & Screen、輸血後GVHDなどについて理解する。

### 8. 臨床生理学:

心電図検査、自動血圧脈波検査、呼吸機能検査、超音波検査、脳波検査、神経伝導検査・脳誘発検査、心臓カテーテル検査などの臨床的意義や概要について理解する。

## III. 方略 (Learning Strategies)

病棟・外来でのトレーニング、学会参加(スライド作製、発表、症例報告など)、カンファレンスなど

## IV. 経験できる疾患・手術など

当院で診療が行われている疾患全般

## V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、症例発表による自己評価・指導医評価。指導医・看護師などによる形成的評価。

## VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 中島 収
2. 指導責任者 大崎 浩一
3. 指導医 中島 収、大崎 浩一
4. 研修施設 久留米大学病院

## VII. 週間予定

各臨床科のカンファレンス(血液内科、消化器内科・外科、病理)や学内CPCにも参加し、検査データの評価、病態の理解に努める。また臨床検査専門医の役割、業務について理解を深める。

- |   |      |                                       |
|---|------|---------------------------------------|
| 月 | 8:30 | 輸血検査室～外来治療センター:<br>輸血検査や自己血の貯血業務      |
| 火 | 8:30 | 臨床検査部B: 血液・一般検査:<br>末梢血液像の鏡検、出血・凝固検査  |
| 水 | 8:30 | 細菌検査室:<br>各種染色法や鏡検、(ICTラウンドに参加: 曜日不定) |
| 木 | 8:30 | 臨床検査部B: 生化学・免疫検査                      |
| 金 | 8:30 | 臨床検査部A: 生理機能検査(特に超音波検査)               |
| 土 | 8:30 | 検査室ラウンド                               |

